

第1回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 西北地区統合校における目指す人財像について

【各委員からの意見】

- 統合校の普通科においては、各地域の活動を取り入れながら、工業や情報の知識を持った国際的にも活躍できるビジネスマンを輩出してほしい。
- 実社会に順応し地域に貢献できる人財を育成することが最も重要である。
- 統合校には工業科と普通科が併設されるため、IT技術をベースに全国や世界で活躍する人財とともに、地域を大切にし、地域に根ざし起業する人財を育てるような教育も必要である。
- 委員の方々からあった意見については既に第1期実施計画に記載されているように思うことから、この基本的な部分を逸脱しないように今後の議論を進められると良い。

(意見等記入票における意見)

- ICTの活用等による教育の充実と起業を志す生徒の育成により、地域に根付くような人財、地域経済の発展に貢献できる人財。
- グローバルに活躍するリーダー育成。
 - ①自らのキャリアをデザインできる力の育成
 - ②地元にあこがれを持ってもらう教育

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 第1期実施計画で掲げる「社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財」「多様な価値観や立場を理解し、多くの人々と協働しながら地域を支える人財」「ビジネスの基礎を身に付け、地域経済の発展に貢献する人財」「生活の質の向上に関する知識を身に付け、地域の発展に貢献する人財」「高度な工業技術を身に付け、付加価値の高い創造的な製品を開発するなど地域産業を支える人財」の5点を基本としつつ、今後、開設準備委員会の意見を踏まえ検討を進めてもらいたい。

2 西北地区統合校の学校像について

【各委員からの意見】

- 統合校に新たに設置される普通科の教育活動に、現在、各地域で行われている活動を教育資源として活用してほしい。また、普通科と工業科が併置されるため、普通科の教育活動に工業科の要素も取り入れていけると良い。
- 大学進学等を希望する生徒のための進学指導体制を整備できると良い。
- 地域を担っていく価値のある人財を育成するため、生徒が興味を示し関心を持てるようなカリキュラムを設定してはどうか。例えば普通科の生徒が選択できるように「国際理解」や「国際観光」、「福祉」、「情報」を取り入れてはどうか。
- 普通科と工業科との間で連携しながら、双方の学科において専門的な学習に取り組めると良い。
- 道徳教育は非常に重要であり、道徳教育に関する時間の設定も検討してほしい。
- 今後の人財育成に当たっては、ロータリークラブやライオンズクラブ等の外部団体による国際交流等の活動も活用すべきである。
- 工業科と普通科が併設されている良さを打ち出すことで保護者や子どもに選ばれる学校になるのではないかと。このため、統合校の目指す学校像や特色は今までにない斬新なもの

を打ち出すことが必要である。

- 統合校の普通科でなければならない新たな取組によって、子どもたちに夢を与えられるようになってほしい。
- 統合により工業科の専門高校に普通科2学級が併置されるが、鶴田高校の国際教養コースや金木高校の様々な取組などの特色を生かしてほしい。
- 五所川原工業高校がこれまで築き上げてきたものもあるだろうが、新たに普通科が設置される中でどのような独自性を出していくのかを考えなければいけない。
- 国の有識者会議でも、地域の在り方がかなりクローズアップされているため、今後、国の提言等の動向を注視しながら、西北地区統合校において、地域との関わりという点でどのようなカラーを出していけるか具体的に検討していかなければいけない。
- 地域から学校がなくなることで、地域が衰退することを危惧しているため、統合校では地域活性化や地方創生等の観点も取り入れて取り組めると良い。
- 普通科の生徒が疎外感を持つことのないように配慮した施設整備をお願いしたい。
- いかに普通科に特色を持たせることができるかが勝負だと思う。いかに普通科と工業科を融合させるかという点や、中学生にとって統合校に入学して良かったと思える学校づくりに知恵を絞っていかなければいけない。
- 工業科と普通科がバラバラではなく、一つの学校の職員として協力し合っていく必要があり、統合校のスタートが重要である。

(意見等記入票における意見)

- 地方創生の推進に向け、地方に関心を寄せ、地域課題の解決に貢献する学校にしてもらいたい。
- 地域活性、地域創生という視点を加え、地域が衰退しないような教育を実現していただきたい。
- 資格取得、進学指導等、2つの科の良いところをお互いに吸収して特徴ある工業科及び普通科にしていきたい。
- 統合校でなければならないような多様な学習の機会があるというイメージがほしい。
- 統合校同士、今からでも一緒に活動する機会があっても良いのではないか。
- 地域活動に参画させることによって、地元に対する理解を深め、生徒が地元に着定するように図る。

【開設準備委員会における意見(まとめ)】

- 開設準備委員会における様々な意見を踏まえて、より魅力ある学校づくりに向けて県教育委員会で検討を進めてもらいたい。

3 校名案の決定方法について

【各委員からの意見】

- 開設準備委員会を設置した趣旨を考えると、委員が校名案を出して議論を進め、最終的に県教育委員会が決めるべきである。B案が良い。
- 委員の方々にも校名案に対する思いはあるだろう。また、各校の代表として委嘱されている委員もいるため、第2回会議で具体的な校名案を出した上で県民に意見照会すると良いのではないかと。

※A案（事前公募方式）は、開設準備委員会で校名案を検討する前に校名案を県教育委員会ホームページ等で公募し、その中から開設準備委員会で校名案候補を絞り込むもの。

※B案（事後意見照会方式）は、開設準備委員会委員から提示された校名案候補について県教育委員会ホームページ等で意見照会し、その結果を踏まえて開設準備委員会で校名案候補を絞り込むもの。

（意見等記入票における意見）

- 黒石高校と黒石商業高校の統合では、統合校の名称が「黒石高校」となったことも1つの参考として考えたい。
- 各委員が持ち寄る校名案の選定方法については、ある程度基準を明確にして統一してほしい。
- 全国の統合校で、普通科と工業科が併設しているところがあれば、校名の参考例として、事務局から提示していただけないか。
- 目指す人財像や学校像を決めてから、それを校名にする。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 校名案の検討についてはB案（事後意見照会方式）で進める旨を確認し、委員から了解された。

4 その他、校名案に関する意見

【各委員からの意見】

- 西北地区統合校は、旧市町で言うと4つの市町が関係し、どこかの地域を優先する訳にもいかないため地域名を付すのも難しい。
- 校名については、各校の思いが一番強い部分であると思う。今回の統合は五所川原工業高校への吸収合併ではないことや、各地域の校名に対する思いもあるため、現時点では意見を控えさせてほしい。
- 統合校の所在地が五所川原市になることは決定しているため、所在地が分かるよう冠は「五所川原」とした方が良いと思う。ただし、それ以降の部分については、工業科と普通科が併設されることを踏まえると総合的というイメージもあるし、そうではないかもしれない。この点については委員の方々の意見も聞いてみたい。